

ようやく2mの小滝が出てきた。しかしあとが続かず、平凡なまま右俣出合、続いて左俣出合となる。今日の目的は中俣である。

この先は急傾斜となる。滝を期待したのだが、残念ながらひとつも現れないまま源頭部に達してしまった。源頭部は急峻なルンゼとなっている。半ば落石で埋まり、足元に注意しながら登る。ルンゼ途中で階段状の滝がかかるが、楽に通過。ぐんぐんつめ上げていって、最後はヤブの中に飛び込む。(

[タイム] 栗生沢(6:50)→コクトツ沢出合(7:40)→アノヤマ沢出合(8:05)→コイチガ沢出合(8:30)→右俣出合(8:55)→中俣終了(10:05)

蔵川右俣

1986年7月26日

L

中俣の遡行を終えて、東方に30分程やぶをこぐ。カブレ沢の流れを見降ろす尾根に出てから右俣の下降開始。

右俣の源頭部は、やはり落石のいっばいつまった急峻なルンゼである。上部は草付きまじりで、所々岩場が顔を出す。部分的に下降不可能な所もあり、右岸の樹林帯に逃げ込んだりしながら下降。右岸から2本のルンゼが合流するところまで下降してようやく小休止できるようになる。軽く昼食をとって出発。

右岸からルンゼが2本入り、沢が左にカーブすると、小滝が連続するようになる。大きいものでも落差は5m程度。花崗岩質で割とホールドがあり、ほとんどは楽にクライミングダウンできるが、たった2mの滝1個が下れない。結局、左岸の立木に支点をとって懸垂下降する。

10mのナメ滝を下ると沢幅も広くなる。そして沢は平凡に。ホッと一息つく感じで進むと、今朝方通っていった右俣との出合であった。(記・

[タイム] 右俣下降開始(11:00)→右俣出合(12:45)→コイチガ沢出合(13:05)→アノヤマ沢出合(13:20)→コクトツ沢出合(13:40)→栗生沢(14:40)

アノヤマ沢

1986年7月26日

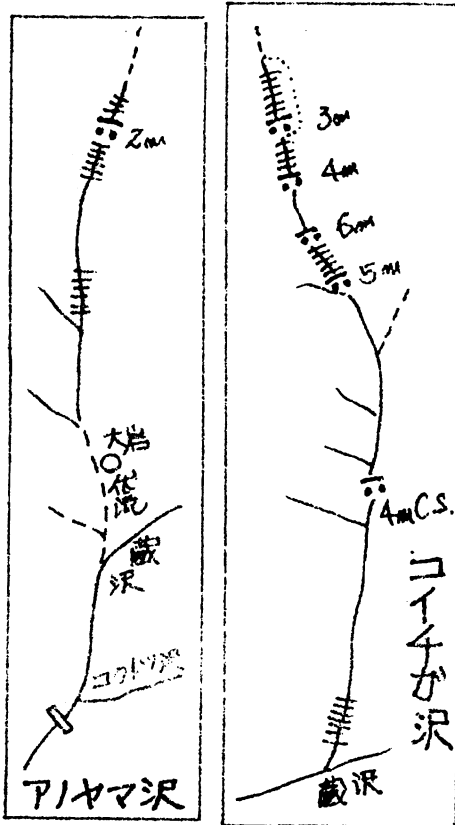
L

8:00アノヤマ沢出合。水が流れてなく、濁沢であろうと覚悟を決めて遡行を開始する。15分程歩くと水流が見え始める。出合付近が伏流となっているようだ。

沢は平凡。等高線が混んでいるだけで、悪場もないままどんどん高度をかせぐ。出合より50分程で源頭部。そこからヤブをこいで黒滝股山のピークに立つ。

(記

【タイム】 アノヤマ沢出合(8:00)→沢終了
(8:50)→黒滝股山(10:30)



コイチガ沢

1986年7月26日

L.

黒滝山ピークで小休止後、稜線を5分歩いてコイチガ沢へ下降する。この源頭部は急傾斜のナメ状で、クライミングダウンできず、左岸ぞいに灌木をつかみながら下降する。

4m滝はクライミングダウン。次の6mを懸垂下降するとまたナメ。そのあと5mの滝をクライミングダウンして、この沢の核心部は終わる。

あとは平凡な沢となる。途中の4mチョックストーン滝を本日2度目の懸垂下降で

通過すると、30分程で蔵川に出た。

コイチガ沢を遊行し、アノヤマ沢を下降した方が楽しめる。(記

【タイム】 下降開始(10:40)→蔵沢出合(12:40)

5. 霧来沢流域の沢

労山福島県連の沢登り集会として、只見川流域に入るのは、これが3回目である。今回は、霧来沢流域に的を絞って、大石田沢・金丸沢・押倉沢へと入る。以下、その時の記録を紹介する。